

瀋陽だより

2015年 4月号

報告者：東北育才学校

高井 奈央子

学校設備について



東北育才学校では、写真のような電子黒板が導入されています。当初は中学部だけだったのですが、3月から高校部にも設置されました。インターネットにも接続されています。

USBにPPTデータと聴解音声データを入れておけば、大抵のことは電子黒板で済ませることができます。

DVDプレーヤーはないので、日本から持ってきたDVD教材を使用するときは、自分のノートパソコンを接続するしかありません。ところが、どうも日本のノートパソコンと相性が悪く、DVD再生しようとする、画面がフリーズしてしまうところが欠点です。日本のDVDはUSBに取り込めない、視聴覚教材の形態については不便さを感じます。ノートパソコンをLenovoなどにしてあげればよかったのかもしれませんが。

この電子黒板の凄い所は、写真1のように、「書く」機能も付いているところです。手で画面を強めに押すと、線描画が可能です。私はもっぱらPPTで授業をしているので、この機能を使ったことはありませんが、チョークの粉による汚れを気にしなくていいのは画期的だと思います。ホワイトボードだとどうしても字が小さくなってしまい、後ろの生徒に見えにくかったりするのですが、この機能を使えば、文字のサイズ、線の太さも問題なさそうです。

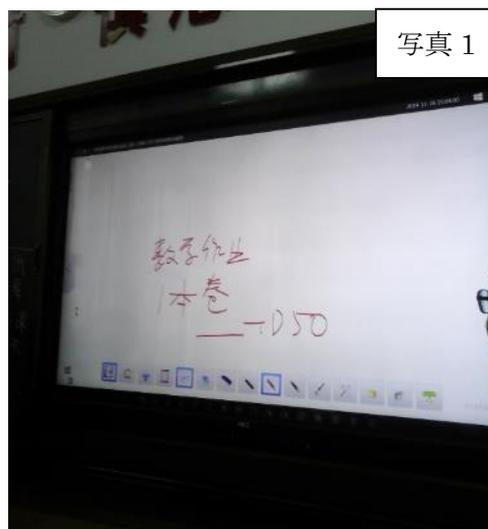


写真1

また、コントロールパネルの下に、写真2のようなライトがついています。実はこれ、昔のOHPの機能がついています。

ライトの下に実物を置くと、それが電子黒板上に映し出されます。そして、電子黒板に内蔵されたソフトウェアを使えば、映し出した画像上に、直接文字を書いたり、線を引いたりすることができます。

例えば、このライトの下に教科書を置いて、画面上で「この部分に注目してください」と、該当箇所に線を引いて皆に見せることが可能になります。

これらの機能のほとんどは、生徒から教えてもらったものです。生徒に、「この機能を使った授業を受けたことがありますか？」と聞くと、「いいえ、ないです」という返事が返ってきました。こういう設備に対する順応の早さや、機能把握については、生徒のほうが上ようです。国を問わず、と言ったところでしょうか。



写真2

電子黒板を使わないときは、普通の黒板がスライドして電子黒板をふさぎ、写真3のような状態に戻ります。便利ですね。

ところで写真3は中学3年生の英語聴解の解答です。……ハイレベルなことをしているように見えます。東北育才学校の生徒たちは本当に素晴らしい能力を持っていますね。

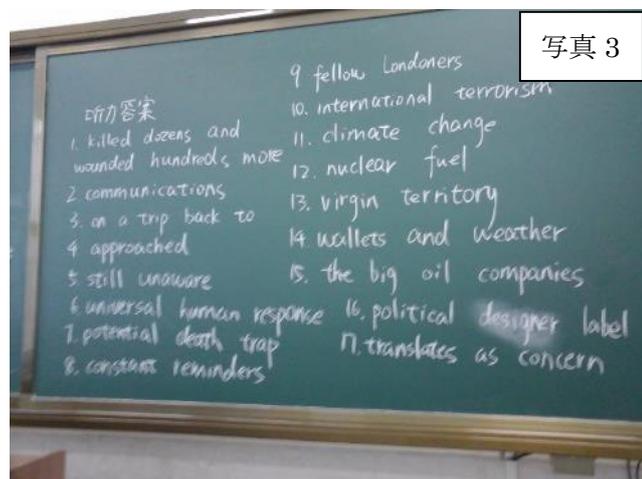


写真3

日本語文化祭



4月26日、瀋陽市図書館にて、日本語文化祭が開催されました。幹事校は瀋陽医薬大学。演目や音楽の管理、ポスター制作まで、学生たちが中心になって運営していました。会場の下見が土壇場でキャンセルされたり、音楽データや諸連絡の不備からリハーサルができなかったりと、ハラハラさせられることがたくさんありましたが、なんとか無事に日程を終えることができました。

労働節の振り替え授業が行われている学校もあるらしく、観客数が不安視されていましたが、当日はほぼ満席でした。主に保護者の皆さんが応援に駆け付けてきてくれていたようです。中国の保護者パワーは日本のそれを軽く凌駕しています。

私の担当する中学2、3年生合同演劇チームも、保護者から様々な形で支援をもらいました。会場下見を断られて困っていたところ、主要役者の生徒とその保護者が図書館に掛け合っってこっそり会場の下見と簡単な練習をさせてもらえた時は、本当に助かりました。

上の写真には、司会者4人が写っていますが、衣装代はすべて自分持ちです。時間、お金、労力を惜しみなくつぎ込まれているのが分かります。

午前中はクイズ大会でした。各学校の代表チームが、右写真のような問題に挑戦し、正答数の多さを競いました。アニメや声優に関する問題も多く見られました。明智光秀を知っている学生もいて、その知識の豊富さに驚きました。東北育才学校は、中学3年生2人と高校3年生1人の混成チームで出場し、優勝していました。流行語大賞「おもてなし」を知っていたかどうかで勝敗を分けました。

結婚披露宴で新郎新婦が別の衣装に着替えることを何直しというでしょう？



午後からは舞台発表が行われ、東北育才学校中学2・3年生混成チームは演劇「白鳥の湖」、高校1年生と2年生は合唱を発表しました。写真は「白鳥の湖」の時のものです。お姫様の衣装が白雪姫なのはご愛嬌。中学生が日本語のセリフを暗記して約15分の演劇をやりきるなんてすごいことだと思います。

右の写真は、瀋陽師範大学による演劇「花子とアン」の様子です。単衣の着物を用意するのは難しいし、着付けも大変ですが、浴衣なら比較的簡単に手に入るようです。ナレーター担当者も美輪明宏とよく似た雰囲気を出そうと頑張っていたのが印象的でした。



中国の中学校や高校では、普段、そろいのジャージを制服がわりにしています。高校部には、ブラウス&スカート、ブラウス&スラックスの制服があるようですが、特別な式典の時にしか着ません。そんな中国の学生たちからすると、日本の高校の制服というのは、特殊なものに見えるようです。この文化祭の「衣装」として日本の高校の制服に似せたそろいの衣装を着て、歌やダンスを発表しているグループもありました。



こういったイベントの常ではありますが、規定時間を超えた演技が続出して、大会全体のスケジュールがずれてしまいました。貸衣装の返却時間が17:00だったので、生徒たちも私も1時間近くスケジュールが遅れていることに大いに焦りました。しかしここでも保護者の皆様の交渉術でなんとか切り抜けることができました。異国にいるとますます、ほかの人の援助がありがたく感じられます。生徒たちもいい思い出になったのではないのでしょうか。